

10日間に10万人が読む雑誌

+plus

経済レポート

2020 7.20 1705号

URL/ www.keizai.info
www.keizai.co.jp
Mail/ info@keizai.co.jp

2020 (令和2)年 7月20日発行 (毎月1日・10日・20日発行) 1973 (昭和48)年 7月27日 第三種郵便物認可

(株)ビーシーシー 社長 [福山市]

関谷 洋 さん



情報ビジネス通じ社会貢献 人に優しい情報環境を創造



(株)ビーシーシー 社長

せき や ひろし
関谷 洋さん
(60)

▷関谷 洋= 1959年7月26日生まれ。東京都出身。早稲田大学理工学部卒業。趣味は旅行、読書、家庭菜園、洋楽鑑賞など。

(株)ビーシーシーは、三菱電機グループの情報システムサービス企業として52年の歴史を持ち、民間企業から地方公共団体、三菱電機関連企業などを対象に高品質な情報システムの提供やソフトウェアの開発を行っている。本誌でも取り上げた自治体向け「水道スマホ検針システム」などは、社是にある「情報ビジネスを通じて社会に貢献する」を証明した一つの事例のように見える。同社の概要や今後の事業展開などについて関谷 洋社長にインタビューした。

「御社の歴史の中で初代社長の小林政夫さん（1914-2000）の存在が大きいですね

「福山市民の方ならご存じでしょうが、小林さんは上場企業の日東製網(株)や第4代の商工会議所会頭を務め、福山の経済の発展に心血を注がれました。弊社は小林さん他関係者の『備後工業整備特別地域』において情報

システム発展の担い手になる」という強い意志から1968年、三菱電機(株)福山製作所(福山市緑町)内に(株)備後電子計算センターとして産声をあげました。81年に現在地(光南町)に移転し、86年に現在の社名に変更したわけですが

2006年には名古屋支店を開設。さらに07年には福山市内にデータセンターを開設しました。また、12年には自社製品である太陽光発電遠隔監視システム『Ene Watch』を開発し販売を開始しました」

「データセンターについてもう少し教えていただけませんか

「Bは『ビジネス』、次のCは『コンサルティング』、最後のCは『カンパニー』で、ロゴマークは3つの『C』(Creative = 創造力・Communication = 地域と交流・Customer = 顧客志向)をシンボライズしたものです。つまり、弊社は『人に優しい情報環境をクリエイト』するよう努力しております」

「お客様の大切なデータをお預かりするわけですから、堅牢で安全な建屋です。震度7クラスまで対応できる耐震構造で、すべての機材は地上3.5m以上に設置しています。これは『福山市津波ハザードマップ』に基づいた設計になっています。セキュリティも24時間・365日有人で運用しております。日本列島の中で絶対安全という地域はありませんが、福山は地震・津波などの震災被害が少ない地域であり、そういう意味ではこのデータセンターの存在は大きいと思います」

「社名変更後のヒストリーを聞かせてください」

「安全と言えば、それに関する認証を取得されていま



「水道スマホ検針システム」の操作研修



三菱電機福山製作所「ファミリーフェスティバル」に参加したビーシーシー社員（手前）



ビーシーシーの本社ビル

すね
「ISO27001（ISM S・情報セキュリティマネジメントシステム）、Pマーク（個人情報保護マネジメントシステム）、ISO9001（品質マネジメントシステム）などの認証を受けています。お客様に安心して仕事を任せていただける体制を整えています」
―以前に本誌で紹介しまし

三菱電機福山製作所「ファミリーフェスティバル」に参加したビーシーシー社員（手前）
▷(株)ビーシーシー＝福山市光南町3-6-10、電084・921・2477。資本金2千万円、社長以外の役員は次の通り。敬称略。取締役＝若林洋司、友田雅雄▽社外取締役＝柴田諭（三菱電機(株)福山製作所所長）、松本茂太郎（福山ガス(株)社長）。社員数254人、年商39億9200万円（2019年度）。

た「水道スマホ検針システム」についてももう少し説明を
「今までの水道検針業務では、大型の『ハンディターミナル』を使っているため、検針員の負担が大きく、解決策が求められておりました。そのような中、(株)7DA（佐賀県武雄市）というソフトハウスが、検針にスマホを使ったシステムを開発した、というニュースをキャッチし、早速弊社で展開することにしました。中国地方を中心とした自治体様にアプローチし、岡山県美作市で採用いただきました。検針員様の負担軽減になっていっていると考えています」
―御社は18年に創立50周年を迎え、昨年は「健康経営優良法人2020」（中小規模法人部門）に選ばれました

「働き方改革の推進により労働生産性を上げることが求められています。そのためには、従業員が心身ともに健康であることが大切になってきています。当社では従業員の健康管理を経営課題として全社で取り組み、結果、この健康経営優良法人に認定されました。また、地域の皆様との親睦も大切に、毎年秋に開かれる三菱電機福山製作所の『ファミリーフェスティバル』に参加させていただいております」
―今後、どのような事業展開を考えておられますか
「今回の新型コロナウイルス感染症の拡大は、弊社を含め、様々な企業において根本から企業の在り方、仕事の仕方などを考え直すなくてはならない、ということとを突き付けられたように思います。生活様式、勤務形態の変化など、様々な垣根が取り払われた現状に対し、弊社は『デジタルトランスフォーメーション（DX）』への取り組みとして、クラウド、5G通信、AI、IoTなどの技術推進により、新しい分野に積極的にチャレンジしていきます」
―最後になりましたが、関

谷社長のことについて聞かせてください
「1959年に東京都新宿区で生まれましたが、父親の務めの関係から東京、大阪、兵庫、千葉と、就職するまでに8回転居（関東と関西を2往復）しました。中学卒業までに4回転校し、高校から早稲田大学高等学院に進み、同大学理工学部機械工学（専門・流体力学・産業数学）を卒業後、82年に三菱電機に入社しました」
―ビーシーシーの社長に18年に就任されましたが、三菱電機での職歴は？
「本社と福山製作所で情報システム、そして福山製作所ではデバイス設計、人材育成、生産管理システム、製造部、新事業関係など、あらゆる分野の仕事を任され、気付くと福山での生活は38年になりました。福山市は中核市であり、交通の便もよく、災害も少なく、海や山も近く自然に恵まれ、とても住みよい街だと感じています」